

雑 錄

○工場委員制度の効果 (承前)

島 村 生

二一、單なる福利委員會、阪神地方三十三の工場委員會を通觀するに「労働條件」を協議事項中に加へざる向は三菱の外に（その代り解雇條件を加ふ）大阪府下では森下第一製菓、發動機製造、兵庫縣下では大日本木管等である。之等は福利委員會たるに止つて眞の工場委員會とは言ひ難い、而も福利增進施設は此機關なくとも會社が自發的に行ふものである三菱の福利委員會が發表された時、賀川豊彦氏等が「無いよりも善い」といつて皮肉に評し去つたのは畢竟此故である。

尙労働條件を協議事項中に加へてゐる委員會中でも

一、單に「労働條件」と記してゐるもの（ダンロップ謹謨）

二、作業時間伸縮及び一般賃銀の増減と明記せるもの（大阪電氣分銅、新田帶革、藤永田造船、日本電線）

三、労働時間及物價指數の高低に順應する最低賃銀の増減と稍制限を置けるもの（住友伸銅所、同尼崎工場、同電線製造所、同製銅所、久保田鐵工所、同尼崎工場、延原式電機）

の三種類がある。第一項は労働條件とのみで稍意味の漠然たる嫌がある。事實ダンロップ謹謨會社では賃銀問題を協議してゐる職工側に取つて第二項の明瞭なる規定が最も望まれる事であらう。

二二、「幸福増進」の解釋 而も茲で問題となるのは福利委員會若くは最低賃銀以上に賃銀問題の評議を許さざる委員會に

賃銀假上を要求した場合の事である。現に住友各工場に於ては職工側より賃銀値上の件を提案したが理事者は委員會の權限以外の者として受理を拒み職工側は更に之を「幸福増進」に關聯する問題だから當然受理せらるべきものであるとして今尙紛議中である。會社の規定せる「福利増進」は稍意味不明の嫌ひがないでもないが今日の慣用語としての「福利増進」といふ言葉が、Welfare Work の譯語であるとすればそれは嚴格に言へば賃銀、労働時間の如き労働條件を含まないものである、けれども元來が勞資協調をモットーとして設けられたものだから此字義の解釋は原語の意味如何に關せず兩當事者に依つて決定さるべきものであらう。三菱合資會社に於ては豫め此點を顧慮したものか委員制の説明中に左の如く記載してゐるのである。

本會の職能としては主として生産能率に關する事項と職工の福利増進に關する事項を擧げ労働條件に關する事項の除外されてゐます、故に會社の眞意は労働條件を議題として審議する事はしませぬが能率又は福利の増進に關聯し自然賃金問題なり時間問題なりに論及せらるゝ事は敢て差支ありません。

即ち労働條件そのものとしての提案は容れ難いが能率又は福利増進に關聯しての賃金問題は必ずしも受理を拒むものではないと言ふのである。既に労資の協調機關として生れた委員會であり、殊に諮詢機關としての委員會である。文字の解釋などに拘泥して労資が噛み合ふほどならば工場委員會はヨシ形はあつても魂の抜けてゐるものと云はねばならぬ。工場委員會を認むる以上は労資相互に今少し善意であり親切であり正直であります要はあるまい。

二三、工場委員會の組織 工場委員會の組織に就ても亦工場

に依り區々として一定して居ない、即ち労資双方から委員を選出して合議せしむる二元式のものもあれば労資協議の形式を取らずに單に労働者側選出委員のみの協議に止むる一元式のものもある、尤も後者の場合も全然會社側から出席しない譯ではないが夫れは議事に加るといふよりも参考人として参列するに過ぎない之を阪、神三十三工場委員會について見ると七割は労資合議の二元式制度を探り、残り三割が労働者側のみの一元式制度を探つてゐる、而して一元式選出制度の工場委員會は概して小工場に多いが其選出委員數は左の如くである。

| | | | |
|--|--------------------------------------|---------|-----|
| 森下製菓 | 一六名 | 大阪鐵板 | 一二名 |
| 日本橋梁 | 一八 | 市田オフセット | 一八 |
| 鐵道省鷹取工場 | 一一 | 安治川鐵工 | 一五 |
| 藤永田造船 | 五 | 電氣分銅 | 一一 |
| 即ち鐵道省鷹取工場の二十一名を最高とし大體十六七名といふ處が多い。 | | | |
| 二四、一元式委員會 | 此一元式選出制度の長所としては三菱造船所の説明書に左の如く記されてゐる。 | | |
| 近時同數の管理者側指名の委員を加へて二元的要素から成立つ複合の工場委員會を認むる者も少くない様であります。が職工委員をして何の遠慮もなく各自の意見を吐露せしむる爲めに一元式を選んだのであります。而し相互の接觸諒解に依り圓満なる協議をなし得る點に於ては二元式にも長所がありますから本會は主として職工の選出委員のみを以て組織するも尙二元式の長所を認めて參與員をして議事に參與せしむる事にして居ります。 | | | |
| 二元式の工場委員會數は一元式の委員會數に比べて約倍數を示してゐる、兩者果して何れが委員會制度の目的に叶へるや否や容易に決し難い問題であるが徹底的に議事を闘はせる點 | | | |

から労働者には二元式の方が歓迎されてゐるものゝ如くである。併し二元式にも短所とする處がある。即ち労資同數の委員を選出した場合、會社側から若干名の御用黨委員を籠絡し多数決を以て會社側に不利なる案件を否決し去る惧れのある事である、何れにしてもその議決がその儘實施されるものとは限られぬのであつて見れば兎や角言ふほどのものではあるまい。

二五、二元式委員會 二元式委員制度を採用する工場名及勞資委員選出割合は左の如くである。

| 會社側人員 | 職工側人員 |
|-----------|-------|
| 住友伸銅所 | 一八 |
| 同電線製造所 | 一二 |
| 大阪電燈會社 | 一三 |
| 久保田鐵工所 | 六 |
| 汽車製造會社 | 九 |
| 新田帶革製造所 | 五 |
| 東洋鐵工所 | 九 |
| 村尾造船所 | 七二以下 |
| 發動機製造會社 | 一二 |
| 横河橋梁製作所 | 一〇 |
| 住友伸銅(尼崎) | 九 |
| 日本電線 | 一〇 |
| ダントロップ | 一一 |
| 淡陶會社 | 一〇 |
| 山野鐵山 | 一〇 |
| (以上大阪府) | 二〇 |
| 大日本木管 | 一〇 |
| 久保田鐵工(尼崎) | 一一 |
| （別に部屋主五） | 一〇 |
| 六九五 | 一〇 |
| 一六四五 | 一〇 |
| 一六四七 | 一〇 |
| 一六四六 | 一〇 |
| 一六四九 | 一〇 |

汽車會社の七十二名といふのは各工各課毎に開かるゝ協議委員會の委員の總數であつて此各種協議員會は更に各一名宛の代表者を選出しそれが協議員總會を開き又相關聯せざる工課間に於て協議員聯合會が開かるゝ組織となつてゐるのである。汽車會社を除いて他の二十一委員會は平均十名宛の委員を勞資双方より選出してゐるのである。

二六、例外式委員會 只だ例外とするのは生野鑛山に於て坑夫側十六名に對して鑛山側三名を出すに過ぎないのは一元式と二元式の中途にあるものと見るが適當であらう、更に部屋主(飯場頭)五名を出してゐるのは飯場制度が坑夫の福利増進に關係深きが故である(同鑛山の飯場制度は最近廢止された筈)又帝國製錫が會社側一名(支配人)の外に事務員側より十一名職工より五名(内一名伍長)を選出する事としてゐるのは平等交渉の原則から言つて労働者を輕んじた嫌ひがある併し此會は工場委員會とも工場協議會とも勤續一年以上、年齢二十歳以上、汽車會社、日本電線、大日本木管と呼んでゐる點及びその協議事項として能率増進の外に「事務整理其他營業上より生ずる各般の事項」と記し漸く最末尾に至つて「並に會社對被傭人間の問題等」と結んである點から見て之は企業參與制度といふよりも寧ろ事務打合制度といふ方が適當かも知れない、斯くの如くにして會社側より指名さるゝ委員は通常之を指名委員といひ、職工側より選出さるゝ委員を選出委員と呼んでゐる、然らば選出委員の選舉方法は如何であらうか。

二七、工場委員の選舉 同じく工場委員であつても會社側を代表して出る所謂指名委員は其名の示すが如く多くは社長の指名に依つて社員中から選ばれて來るので之に就ては殆ど問題はない。然るに一方労働者側から出る所謂選出委員に關しては之が選舉に依つて選出される者である爲めに選舉權に關し種々の説が行はれてゐる言ふまでもなく此處に選舉權を行使し且つ被選舉權をも有する者は被傭者であるべきであるが米國などに於ては此の被傭者に或る限界を附してゐる。即ち組長、伍長、工場監督、定給、週給、月給被傭者等の役付職工の一部に對し選舉權及被選舉權を與へぬ處のある事である。コハ蓋し工場委員制の眞意が之等役付職工を介在せしめざる勞資の接近融合を圖るにあるからである。然るに我國の工場委員會にあつては今日のところ斯くの如き平職工のみの選舉權を保證する處のなきは勿論却つて平職工を排し役付職工に此特權を與へてゐる向さへあるのは遺憾である。

二八、被選舉權の資格 順序として被選舉權から説明しやうなら、先づ被選舉權の資格に關し全然制限を置かざるものとしては英人の經營になる兵庫縣武庫川海岸にあるリバー・グラザース石齡工場がある。併し之れはリバー工場のみであつて今日の處關西では他に類例はない。關西の大部分の工場委員會に於ては勤續年數及年齢に一定の制限を置いてゐるのである。今その代表的なものを擧げるならば次の如くである。

勤續一年以上、年齢二十歳以上、汽車會社、日本電線、大日本木管
勤續一年以上、年齡廿五歳以上、久保田鐵工所
勤續二年以上、年齡廿五歳以上、一年以上當該區域に勤續する男子鐵道省廳取

即ち勤續一年乃至二年、年齢二十歳乃至二十五歳を制限としてゐるのである。鐵道省鷹取工場が特に「一年以上當該區域に勤續する者」と制限したのは同所の勤續年數に依る制限が勤續區域の如何に拘はらず國有鐵道に居りさへすれば資格がある事となつてゐる爲めに特に斯くの如き規定を附加したものである。

二九、女子の選舉權 尚右に掲げた被選舉權の資格を有する者でも女子には其權利のない處が少くない。鐵道省鷹取工場の如き、大日本木管其他の如きは明かに夫を規定してゐるのである。鐵道省は被選舉權のみならず選舉權をも女子には與へてゐない。コハ果して妥當を得たるものなりや否や研究を要するであらう。否、現に鐵道省福知山區の委員會に於ては婦人參政案を提案したことさへある、大日本木管は選舉權を女子に拒んではゐない。淡路の淡陶會社の如きは明かに「選舉資格」^{即勤續}一年以上年齢十八歳以上の男女」と女子の選舉權を規定してゐる。爾餘の工場にあつては多くは男女の區別を明記してゐない。故に斯る所に於ては職工でさへすれば男女の何れたるを問はず資格を有するものと解釋すべきである尙織維工業の工場にあつては女子本位として選舉資格を規定しあるのは無論である。されば兵庫縣の羊毛紡織會社の如きにあつては十五名の委員中十名の女子工場委員を出してゐるといはれてゐる。

三〇、階級的選舉制度 斯くの如く女子に參政權を與へてゐる處さへあるかと思へば一方には今尙階級的觀念に支配されて役付職工のみに被選舉權を與へてゐる向がある。即ち淡陶

會社の如き伍長級より選舉せしめてゐる處が夫れである。又全然之を役付職工に壟斷させはせぬがその内の一部に必ず役付職工を加ふべきを規定してゐる向がある。即ち帝國製錫で「少くも一人は伍長級より選出すべし」とせるが如き又生野鑛山で「職長最古參者に當然委員なり」とせるが如き又大電が「助手職工中より二名、一般職工より三名」と割當をしてゐるが如きその實例である。斯くの如き階級的の被選舉資格は之を米國の役付職工除外の選舉制度と比較して頗る奇異の感なきを得ないのである。

三一、委員選舉資格 被選舉權に制限のある如く選舉權にも制限がある。全然無制限のものは被選舉資格に制限を置かなかつた武庫川のリバーブル兄弟石鹼工場のみである。而して爾餘の委員會に於ける選舉資格としては大體左の如くである。

勤續六箇月以上 年齡十八歳以上 汽車會社、久保田鐵工所

同 上 同 二十歳以上 住友各工場

同 一年以上 同 十八歳以上 淡陶會社

同 上 同 二十歳 鐵道省、三菱、大日本木管

即ち勤續六箇月乃至一年以上、年齡十八歳乃至二十歳以上であつて被選舉權に比し勤續年數制限に於て約一年、年齡に於て五歳少い。以上の如き選舉資格を有する者に依つて多くは毎年（鐵道省及び三菱のみは二年毎）選舉が行はれるのだがその選舉方法に亦二三特異のものがある。

三二、複選舉折衷選舉 最も正則なる委員選舉は各職場々々からその職工員數に比例して若干宛の委員を選出することである。從員十五萬を有する鐵道省の如きに於ても之を十八區の區域に分ち其處から五名乃至二十二名（鷹取工場）の委員

選出せしめてゐるのである。然るに中には此方法を探らず、複選舉、折衷選舉及聯合委員制を採用する向がある。複選舉は言ふまでもなく二重に選舉を行ふもので例へば藤永田造船所に於て「在職々工三十名より一名宛の幹事を選舉し幹事は更に交渉委員五名を選舉」するが如きのである。又折衷選舉とは大日本木管が「職工中より委員候補十名を選舉せしめその内より五名を選任す」とあるが如き之れで會社が巧みに最過激派の委員となるを避けたものである。尙此外に正則に委員を選舉するが之れを分つて職場委員と工場委員の二にする所謂聯合委員制のある事も閑却してはならない。

三三、職場委員制度 大工場にあつては一個の工場委員會を以てして十分なる勞資の意思疏通を圖る事は困難である。故に此の工場委員會の下に各工場を範圍とする職場委員會を組織せしめ兩々相俟つて委員制本來の目的を達成せん事に努めるのである。そして工場委員は通例職場委員から互選される。三菱の如きは職場委員會を「支會」なる名稱の下に認めてゐるがその説明に曰く

支會は工場内の一定の小區割毎に設くる小委員である、蓋し利害關係最も深きものゝ間に於ける接觸融合は生産能率の上に最も大なる影響を及ぼすもので工場委員會をして眞にその効果を擧げしむるには支會の運用の如何に俟つべきもの多しといふも過言ではない。

三四、聯合委員制度 曇に説明した汽車會社も此例であるが神戸ダンロップ護謨會社も夫れである。そして聯合委員は通例工場委員中から選舉される。ダンロップの例を見ると、同社各部工場から從業員五十名に付き一名宛の工場委員を選出し工場委員は更に委員中より七名の聯合委員を互選す

とある。そして兩委員會の職能は左の如く區別される。

聯合委員會 従業員の労働條件並に保健、衛生、危害防止、補償、互助共濟、娛樂休養、風紀教育、其他從業員の福利増進に關する事項につき企業主の諮問機關となり又委員の提案を審議調査し其議決事項を企業主に提出する。

工場委員會 必要に應じ直接所屬の工場從業員の利害に關する件につき聯合委員會を經ずして隨時企業主に提言する、但工場委員に依つて提言せられたる事項は一切聯合委員會に報告すべきものとす。

斯くして兩委員會が分業を以て大小の問題を處理し勞資の融和を圖るのである。

三五、委員會と労働組合 工場委員の選舉は通例一職場を一選舉區として行はれる事は曇に述べた如くである。併し英國の工場委員會の如きは労働組合を基礎として構成せらるゝ爲め職工組合の勢力の強い工場に在ては工場委員會は職工組合の工場世話役に依つて組織される場合が頗る多い。又一工場に二個以上の職工組合の存する場合は各組合がその所屬員數に比例して割當選舉を行ふのである、我關西に於ける工場委員會中職工組合の勢力の強い處といへば住友各工場、汽車會社、ダンロップ、リバー、東洋鑄、横河橋梁各工場に於ける日本勞働總同盟所屬各組合、大電に於ける電業員組合、砲兵工廠（同廠には懇談會と稱する委員會類似のものがある）の向上會等を擧げる事が出来るが組合を以て選舉區とする迄に至つてゐるものは今日の處未だ一つもない。只だ久保田鐵工

所のみが獨り率先してその工場委員選舉規定中に之を認めてゐる。

即ち選舉規則第二條に

選舉は左の區分に従ひ各職場を一選舉區とす但し工場内労働團體に屬するものは各工場別を通じて選舉するを妨げず。

として六區の選舉區中一區を労働團體の爲めに割愛してゐるのである。コハ確かに工場委員會中の一異彩である。

三六、組合と相違の點　或工場主は労働組合の勢力を驅逐せんが爲めに工場委員會を設立したと言ふ、併し夫れはお門違ひであつた。何故なれば労働組合と工場委員會とはその職能權限が全く違つて居るからである。尤も兩者は相共に労働者の希望を發表するの組織なる事は労資間の雇傭關係に關し個人協定に代ふるに團體的協定を以てする者なる事に於て同一性質を有するものであるが而も左の諸點に於て相違してゐる。

一、工場委員會は單一の工場又は事業の労働者を代表するに過ぎないが労働組合は職業又は産業に於ける多數の労働者を代表する。

二、工場委員會の會議には會社側の參加を拒まないが組合の會議には之を除外する。

三、少くも米國の工場委員會は傭主の創案に係るものであるが凡ての労働組合は労働者の創設するものである。

尙此外工場委員會はその職工がその工場にある間だけの伴侶たるに止るが労働組合は工場を解雇されても尙彼の爲めに力添へるであらう事、工場委員會は労資協調を基調とするものなるが故に協調破裂後と共にその效力を失ふが組合は寧ろ

協調破裂に於てその力を發揮する事等をも擧げる事が出來る、要するに前者は一局部的、協調的であるが、後者は全般的、戦鬪的である。而も一部を確保するが故に全部のものを不用とする譯には行かない。又平和時代が永久でない爲めには戦鬪の準備が要る。工場委員會は労働組合に取つて代り得べきものではなくて、兩者が相互補充關係にありと言ふべきである。資本家側は工場委員會の外に労働組合の勢力を認めなければならぬと同時に労働者は労働組合の外に工場委員會の效果を知らねばならない。

三七、委員會は安全瓣　工場委員會と労働組合は一部と全部の關係に置かれてゐる兩者が共に發達してこそ其處に産業の進化がある。そして後者の發達が労働者の自覺に俟つものである如く、前者の運用並に發達は懸つて資本家の意志如何にある。委員會は前述せる如く單なる諮詢機關であつてその實行力は資本家の掌中にある。凡ては彼の方寸にある茲に工場委員會の長所があり同時に短所がある。若し工場主にして善意にして正直でありとするならば短所を棄て、長所に就く事が出来る。併し反対に工場主に善意なく正直でなければ工場委員會は却て労働爭議の導火線となるであらう。更に又一方労働者が工場委員會の協調機關なる事を忘れ委員會の職能を越えた要求をなし折角の機關を臺なしとする事の戒しむべきは言ふ迄もない。工場委員會は労資が相争ふ處の土俵ではなくして反対に兩者間の爆發を未然に防止する安全瓣である。

(完)

○製鐵業の將來

今泉嘉一郎氏談

本邦製鐵業は歐洲大戰以來異常の發展を遂げ今や其投資額無慮三億三千萬圓（内政府投資約一億圓）推定製造能力銑鐵百四十萬噸（内地のみにて百五萬噸）鋼材百十二萬噸（同百八萬噸）に上り即ち外觀上よりせば將に一大事業たるの觀を失はずと雖も少しく其實態に就て洞觀せんか徒に小資本分立して彼此脈絡なく各自々主的經營に轉れる結果所謂事業の特質たる大量生産の理想を實現し得ざるのみならず歐米製品の壓迫に依り動ともすれば斯業の發達を阻止せられんとする状勢にあり、殊に一昨年財界の反動以來折角興隆の域に進まんとしたる斯業も一般經濟界の沈衰と歐米品の無暴なる輸入とにより一朝にして頓挫蹉跌し爾來二星霜を経るも未だ其の生色なきが如きは國家の基礎的產業たる點より見て甚だ遺憾に堪へざる所なり、夫れ製鐵業の國家に於ける必要度は尙自然人の食糧にも比すべく文明機關たる鐵道、建築、造船、電氣、機械、土木等各種工業の根幹となり國民文化生活の基調を爲すものなれば斯業の盛衰は一に懸つて國運の隆替を左右するものと言ふも不可なく此の意味に於て適切なる國策を樹て斯業の保護助成に努むるは喫緊の要務なりと言はざるを得ざる。

一、製鐵國を以て知らるゝ英獨の如き戰前何れも十分に原礦を自給する事を得ず全需要額の三分の一は之を諸外國より仰げり、我邦亦原礦に乏しと雖も朝鮮支那を始めとし、佛領安南、ニユーカレドニア等、比隣の地に無限の原礦あるありて一に我國の開發を待ちつゝあり、若し資本の合同を行ひ此等の地方に港灣鐵道等の設備を施すと共に必要なる運鑛船を備え大量の買鑛計畫を爲すに至らば安價に之を吸引する事必ずしも難事に非ざるなり。

二、保護關稅に依り鐵價を昂騰せしむる傾向を生ずるは敢て之を否定せず、然れども保護は畢竟保護のみ一度大量生産を行ひて工費の輕減を促し歐米に對抗し得んか既に保護の目的を達し得たるものにして夫以上保護の必要なきは論を俟たざる所なれ共必ずや安價に需要を充たさしむべきなり、殊に鐵價の八割は勞銀の占むる所なれば保護の利益は單り製鐵業者の壟斷するものに非ずして一般勞働者の均霑する所となるべく勞働者の生活改善上にも亦利益渺からざるなり即ち保護政策を難するものは一時的影響の半面のみを見て他の利益ある半面を閑却するの罪に照するものと言はざるを得ず。

三、本邦所要鐵材は年額約三億圓に達し輸出の大宗たる生絲の輸出額と略比肩する地位にあり、大正七年の如き稍常規を逸せる年なるが生絲の輸出三億七千萬圓に對し鐵材の輸入は三億九千五百萬圓の多きに上り寧ろ二千五百萬圓の入超を示せる例すらあり左れば鐵材の大部分を輸入に仰ぐとせば一面に於て如何に生絲の輸出を獎勵するも結局對外貿易に大なる

由に輸入するに若かずと唱へつゝあるが如きも之れ斷じて余輩の同じ得ざる所なり乞ふ左に其の反證を擧げん

四、然らば保護政策を採用し籍すに相當の年月を以てせば果

して歐米と略同程度迄生産費を低下し得る見込ありやと言ふに余は之に對し即座に然りと言はんと欲するものなり、蓋し

我國の生産費高きは畢竟小資本分立の結果理想的大量生産を行ひ得ざる上冗費の節約を期し得ざる事情の下にあり、且勞

力の浪費甚しく其の値不廉なるに拘らず能率増進に資すべき優秀なる設備又は器械力の應用亦盛ならざるに歸因するものなれば一面に於て必要なる保護政策を探ると共に他方に於て官民の製鐵事業を統合整理して一團と爲し以て此等の缺點を是正せば生産費は歐米に比し大なる懸隔なきに至る事必定なりと信ずるが故なり。

大體以上の如き見解を以て自由貿易論者に酬るんとするものにして余の從來製鐵業大合同の必要を力説しつゝある微衷亦此外に出でざるなり、現下の我國情に於て幾多經濟政策の考慮すべきものありと雖も國民文化生活の基調にして又諸產業の根幹たる製鐵業の對策樹立程急なるものなく而も前途多難多艱なる斯業に一方の活路を開かしめんにはモーリル法案、マツキンレー法案、デイングレイ法案等傳統的關稅政策を以て外來品の侵入を防ぎ世界第一位の產鐵保護政策の教訓に啓發さるゝ所大なると共に又グーリー氏の發案奔走に依り米國東半部の各製鐵所を合同して組織的統一を行ひ理想的經營の下に大量廉價生産を試みたる事例亦他山の石たるながらんや之れ即ち新年の劈頭に於て廣く識者の一考を煩はさんと欲する所以なり。

附記 外國品の投賣取締に就ては一定の據るべき法規あれども爲替相場の激落に依り投賣と同様の結果を生ずる場合の取締に就て何等據るべき法規なし故に余は之れが應急策

として投賣同様の取締を必要と認め居るものなり。

◎軍縮と生産業前途

松尾爲文

今や世界の平和は所謂四國協約によりて永遠に確保せられ日英米の三國は並に鼎立して相讓らざるの觀を呈するに至れり。抑世界の總人口は其の數約十七億に及び更に其の七割に當れる十二億は實に吾々有色人種に屬するものなるが、此等十二億の總代表として其の興亡存廢の運命を双肩に擔ひ亞細亞の一角に霸を稱するに至れる我帝國の代表の任も亦頗る重且大なるものと云はざる可からず、翻つて考ふるに世界の平和は永久に維持せられ、天下は泰平にして國交愈々密ならんとするものなりとせば、軍備素より不要にして戰艦の如き一艦一隻と雖も無用の長物たるに非ずや、吾人は華盛頓會議の協定に依りて年二億の造船費を節すること得べく、協定の期間十ヶ年に亘りては實に其の總額二十億圓に達するものなりと雖も、然も何人か能く世界人類の恒久平和を保證するものありや、一片の條文の如きは武力の前に何等の價值なきことを既に歐州戰亂によりて明かに立證せられたるものゝ如し、曩に一九一三年獨は英の主戰艦一六隻に對して、其の一〇隻を保有するの協定成り、英獨兩國は其の親善年と共に益深からんとするの時、年を閱するごとに僅一年にして翌一九一四年歐洲は全土を擧げて阿鼻叫喚の巷と化し、英國に對して主戰艦僅かに其の六割二分五厘を有するに過ぎざる獨逸海軍は、全く敵の威壓するところとなつて、空しく「キール」其他港灣に蟄居し、僅に潛航艇によて野盜の如き行動に出でたるは諸

氏の猶ほ記憶に新なるところなるべし。初め華盛頓會議開催せらるべしとの噂巷間に傳へらるゝに至るや。我が上杉楨吉博士の如きは速くも國難を叫び、次で主戰艦比率問題の論議せらるゝに及びても「我海軍は華盛頓論戰に於て優秀なる戰艦徒に米國のため轟沈せられたるもの既に十數隻に達せり」

と絶叫するに至れり。更に某名士の曰く「主戰艦比率協定の如きは近き將來に於ける日米海戦の前提たるに他ならず」と斯の如きは聊か穩當を缺けるの觀なきにしも非ずと雖も、然も四國協定によりて恒久平和來を口にするものあらば、其の淺慮誠に憐れむ可きものと云はざる可らず、吾人は宜しく治にあつて猶ほ亂を忘れざるの要あり。今や産業の不振は世界を風靡して、英國の如き百五十萬の失業者を出し大宰相ロイド、ジョージをして「英國は建國以來未だ斯の如き不況に遭遇せることなし」との嘆聲を洩らしむるに至れり、我國にあたりては最近軍備縮小の影響を受けて一般商工業者、就中製鐵、造船業者の如きは其の蒙るところの打撃更に著しきものあるべしと雖も、然も將來に於ける産業發展は必然期して待つべきものあるを以て、此際徒に市況の不振を嘆じ、天下の大勢を洞察するあるなく輕々しく其の業を抛擲するが如きは將に策の得たるものに非ずと信ず、聊か愚言を呈して我生産業者に警告すること件の如し。

○製鐵業合同の急務

本邦製鐵業の發達に就ては朝野共に苦心を重ね政府が臨時

今泉嘉一郎氏談

財政經濟調査會に諮詢した結果合同經營の必要と保護政策の樹立（輸入關稅の引上及補助金の下附）を急務なりとして答申したのである、然るに昨春の議會に於て鋼材關稅を多少引上た丈で政府の爲す所不徹底なのに加へ當業者も一向奮發せず舊態依然たるは遺憾の次第である。

先づ第一に何故合同せねばならぬかといふに凡て何れの工業にあっても現在の如く世界的競争の激甚なる際小資本分立を避け合同大資本を必要とするは歎々する迄もなく殊に製鐵事業の如き大資本を必要となし種々の原料を以て各種の製品作り頗る多量なるを生産額に及ぶものに於て尙更然りである而して經營者に其人を要する事は他事業に比し最も痛切で殊に斯業程技術者を要する處はない、採礦冶金は勿論電氣機關土木、並に運搬に關し特殊の技術者を要し職工亦各種の技術者を必要とする。

今試みに合同により得らるゝ利益を擧ぐれば次の如くである。

- 一、鑛山の開發鐵道の建設及船舶の準備殊に海外より取得するに對し合同作業に依るを便利とする。
- 二、製品の重複を避け資本の活用を圓滑ならしめ生産の増加を來す事。
- 三、重役及主要從業者の數を減じ技術者の優秀なる者を使用し得。
- 四、價格の維持即ち不況時に暴落を防ぎ好況時に暴騰を抑制し得。
- 五、原料を自己の手にて生産する爲め市價に支配さるる事な

六、中間商人の利益手數料を省略する事。

七、原料の生産に對し嚴重なる監督を行ひ得る故に外部より供給を受くる場合の如く品質不同又は不確實なるものゝ供給さるゝ恐なき事。

八、切屑の如き物を經濟的に利用し得。

九、原料の仕入に關し資本を一々動かすの必要なき事。

一〇、原料及製品の運搬費を節約し得。

一一、販途の擴張殊に海外に求むるに便利なる事。

一二、労働者に對し理想に近き社會的政策を有效に行ひ得る事。

然らば合同の方法如何といふに官民合同して民業に委ねる最も可とする、即ち一定の評價委員を設けて八幡製鐵所を始め民間の工場凡てを評價せしめ夫々に株式を分配し重役の如きも株主の選舉とすべきである、唯斯の如き合同に於て望ましいのは或一定の利益例へば六朱の配當を爲し得る迄政府は配當を取得せざる事を希望する、而して世間往々にして合同に就き杞憂する者がある、其言ふ處は現在各製鐵所共に病人の状態にあるから是等病人と病人が相共に結合するとも尙病人であると云ふので、一應尤もあるが吾輩は合同に依り病人を復活せしむると信ずる抑病人に見える原因は不況の結果に外ならぬので戰時中に設立された工場にて平時に於て收支償はざるもの多々あるが合同の上は斯の如き價值なき工場を撤廢し不完全でも見込あらば合同の力に依て得たる大資本の運用にて完全にする事が出來るのである而して合同の結果外國品に對抗し得る有力な生産事業となし國家の保護を少くして自給自足をなし且國家に必要な鐵材を安價で提供する

事を得るに至るのである。

翻つて現在の製鐵界を見るに八幡製鐵所は銑鐵を加工し鋼片鋼塊を作り更に鋼材を生産する事に依り民業と競争をなし正に民業壓迫の状態に在る、然るに合同にして實現せば八幡製鐵所をして他の民間工場になき大型の鐵片又は鋼材を作らしめ民間工場に右半製品を供給せしむるとせば民業壓迫の譏りを受けず却つて他工場をして復活せしむる事となるは必然である、如く觀じ来る時吾人は切に製鐵業の合同促進を希みて已まぬものである。

○製鐵業大合同問題

製鐵業の合同は昨春財界の大不況に際會するに及んで民間當業者から屢々政府に陳情請願した問題であると共に政府の諮詢機關たる財政經濟調査會ても製鐵業を救濟する第一の方針として政府に答申した問題であるけれども、政府に於て其の必要を認めなかつたのか又は必要は認めたが、未だ機が熟するに至らなかつたのか、何れにもせよ今日迄未だ實現しなかつたし該問題は其後一時沙汰止みとなつて居た、所が今回華盛頓會議に於ける軍備縮小問題に依つて再燃し中には此軍縮の影響が造船業の一時的なに比して製鐵業は殆んど致命傷で此際大合同を斷行するに非ざれば我製鐵業は何れも廢体するの外無いとさへ論ずるものがある。

今試みに我製鐵業の現況を調べて見ると、明治初年以來政府が斯業の發達に多大の努力を致したのに拘らず成績不良殆んど見る影も無かつたが、歐洲大戰に際會して急速に發達し

大正八年度には内地産額が銑鐵六十一萬二千噸、鋼材五十五萬二千噸を示すに至り滿洲及朝鮮の産額を加ふる時は銑鐵十七八萬七千噸、鋼材五十萬七千噸、投下總資本約五億圓、從業者約五萬人を算し其設備能力は優に我國の需要を充し得る迄になつたとは云へ我が製鐵業は其の多くが歐洲戰時的好況に企畫せられたもので設備費は高く技術尙熟せず而も當時輸入困難物資缺乏の折柄とて工事一向に進まず爲に設備完成するかしない時に於て早くも休戦となつて鐵價瓦落、次で昨年以來世界的悲況に際會して何れも極度に事業を縮小するの外無き運命に立ち至り只々景氣恢復を空頼みとして居る折柄、亦もや軍縮に脅かされて當業者の苦痛は蓋し想像以上である同じ製鐵業と云つても目下の所最も苦しんで居るのは銑鐵製造業で現在我國（滿洲朝鮮を含む）の斯業に設備されて居る熔鑄爐は百噸以上のもの二十臺、五十噸以下二十七臺（再製銑爐及電氣爐を除く）あるが現に作業中のものは百噸以上のもの十臺で五十噸以下のは皆無である。而も作業繼續中のものと雖も收支相償つて居るのは一箇所も無い。

製鋼業は銑鐵及屑鐵等の原料が下落し且海軍擴張に要する鐵鋼材は成るべく内地産を使用する事となつて居たし近時建築土木工事が發達した等に依り需用を喚起したので高價な原料を購入して居る者と負債の利子等を除くと略收支相償ふの状態だから全然休業したものは極めて稀であるが、今回の軍縮は此製鋼業に大影響を及ぼすものである、就中日本製鋼所川崎造船聯合工場、三菱兼二浦製鐵所、神戸製鋼所、淺野造船製板部の如き我國主要の製鋼場は造船業極度の不況の折柄海軍の註文に依つて辛うじて其の經營を續けて居る状態だか

ら軍縮の結果海軍の註文が半減すると假定しても其打撃は想像に餘りがあらう。

之れだけ調べただけでも製鐵經營状態は略推察する事が出来るが今主なる製鐵業の本年上半期（但し日本製鋼のみは昨年下半期）の貸借對照表を摘記すると（単位千圓）

| 會社名 | 拂込済資金 | （利）益 （一）は缺損 | 借入金 (社債仕 拂手形を含む) |
|--------|---------|----------------|------------------------|
| 日本製鋼 | 三〇、〇〇〇 | — | 二〇、四九〇 |
| 田中鑄業 | 二〇、〇〇〇 | （一）一〇 | 七、五八〇 |
| 大島製鋼 | 三、九九〇 | （一）一〇 | 一、八三〇 |
| 日本鋼管 | 二一、〇〇〇 | （一）一九〇 | 一六、一七〇 |
| 東京鋼材 | 三、〇〇〇 | 二〇 | 一、九九〇 |
| 富士製鋼 | 六、〇〇〇 | （一）一四〇 | 一、六八〇 |
| 住友製鋼 | 五、三七〇 | — | 一、六〇〇 |
| 日本製鐵 | 九、〇〇〇 | 二一〇 | — |
| 大日本製鐵 | 一二、五〇〇 | 一、〇一〇 | 二六、三五〇 |
| 神戶製鐵 | 五、二九〇 | （一）一八〇 | 一、五四〇 |
| 大阪製鐵 | 二、五〇〇 | （一）三九〇 | 二、七三〇 |
| 大阪鐵板 | 六、〇〇〇 | 四八〇 | 一、二六〇 |
| 淺野小倉製鐵 | 三〇、〇〇〇 | （一）九九〇 | 一八、五七〇 |
| 三菱製鐵 | — | — | — |
| 計 | 一五四、六六〇 | （一）一、九二〇 | 一〇五、八五〇 |

製鐵業合同論者の主張する所は「製鐵業の不況は第一の原因が需要減退と生産費の高價に在るのに拘らず鐵鋼材の如きは其大部分を輸入するの状態に在るから鐵鋼材に就きては近時諸外國に於ても一般的に實

施されつゝある、内地産業保護の見地から關稅率を高め銑鐵は製鋼との關係上獎勵金を交付する事も必要であるが生産能力の増加生産費の低下原料の共同購入及製品販賣等の見地から事業の合同を以て緊急事とする、尤も此合同は八幡製鐵所を中心として其の大傘の下に民間の主要製鐵所を糾合し一大合同會社の設立するのでなければ駄目だ」と云ふのである。

然らば大合同に依つて得べき利益は如何と云ふのに先づ原料の取得及製品販賣上に多大の利益が見られる、即ち今顯著な一例を擧げて見ると三菱製鐵は鑛山が少くて原鑛既に盡き而も指呼の間にある殷栗載寧の兩鑛山は八幡製鐵所の所有なるが故に遙に若松に運搬され三井經營の介川に於ても比較的近くにあるのだから之を合同して一經營に屬せしむれば運賃及手數が節約出来る。又八幡製鐵所が支那との間に有する有利な契約も、多數製鐵工場に利用が出来るばかりか屑鐵買入の如きも競争を廢止し得る、次には大規模の生産と作業の分業が出来る即ち現在の様に需要不足より起る註文の爭奪に依つて如何なる品物でも數量が如何に少くとも之れを引受けて製造する故に其間工場設備中不用の部分多く生産力及勞働能力を空費する事甚大從つて生産費は益昂騰するの外無い状態を合同すれば各工場に依つて製品を限定し全能力を發揮し得るから生産額も増加し原料の安價購入と共に生産費を著しく低下し得るのである。そればかりか市況の浮沈極まりなき此製鐵業が今後如何に變轉しても現在の製鐵業を打つて一丸とする時は其共同的作業に其大資本と社會上の信用等に依つて空しく休業又は廢業して設備の荒廢技師職工離散の悲運に

陥る事が防止される農商務當局の見解を以てしても我國の製鐵業を合同し企業組織を改善し技術だに進めば生産條件並に販賣條件の點から見て優に外國品に對抗し得ると云ひ且我國の原鑛埋藏量は極めて少いから將來は我製鐵業の基礎を鞏固にし世界的の信用を得て支那其他隣邦の豊富な原鑛を輸入する事も又必要だと云つて居る要するに製鐵業合同の必要は最早一般的に認められ最早其の時期と方法が問題だと云はるゝ迄に進んで來たから何れ早晚何等かの形式に依つて實現するだらうと觀測されて居るが獨占事業に伴つて起り易いのは各種の弊害である、彼の都市に於ける瓦斯事業の如き萬一合同が實現するとしても官民の大いに注意すべき問題は獨占事業に伴ふ各種弊害の除去策でなければならぬ。

○製鐵大合同の計畫 歐洲戰爭の終局に依つて一大打撃を受けた我製鐵業は最近歐米製品の廉價輸入に依つれ殆ど苦境の極に達するに至つた爲當業者は之れが救濟策に就いて種々政府に陳情する所あり政府も亦此必要を認めて曩に製鐵事業獎勵法を改正し内地製品を使用する造船業其他に對して關稅と同額の補給をする事にしたのを初めとし近時民間より製鐵業合同に關する陳情頻々たる有様なのに加へ今回の軍縮問題もあるので過般來農商務省に於ては我製鐵業救濟に關する徹底的救濟方法を調査研究する事となり省員を各地製鐵所に派して各地製鐵所の現狀即ち生産額と販賣量生産等に就いて詳細調査させ製鐵業救濟に關する立案をして復命さする所があつたが、調査省員の復命に依ると我製鐵業を救濟するには曩に財政經濟調査會で答申した如く製鐵業大合同をなすより外に途がないと云つて居るが、其大合同を必要とする理由

及び大合同の方法と合同後の利益等の大要を聞くに戰後種々

な理由で苦境の極に達した我製鐵業は今回の軍備縮小に依つて更に大打撃を受けるの外ない、尤も軍縮の影響は寧ろ造船業の方が大であらうが造船業の發達には相當古き歴史を有し斯業の基礎は極めて鞏固なのに比し、製鐵業は其發達の日淺く而も基礎が薄弱だから製鐵業の方が事實上の打撃が大で或は續々事業の休止を來たすに至るかも知れぬ、製鐵業は一國基礎産業の一つで之れが興廢は我國の産業に重大な關係を有する故に此際製鐵業を徹底的に救濟する事が急務だ、之れには製鐵所の合同が最も必要である、合同と云つても民間其他從來唱へられた様な部分的合同は反つて各種の弊害を生じ目的も達し難いから、先づ八幡製鐵所を民間に拂下之を中心として民間の主要な製鐵業を合同して一個のものとせなければならぬ、斯くすれば原料の購入上多大の便利がある、現に八幡製鐵所は安價に原料を購入し得るの特典があるに拘らず之れを民間同業に供給する事を爲さず事業不振と共に購入數量を減じ居れるが如き又他の製鐵所に於ても附近に原料產地奉天より山海關附近を探つて天津經由北京に出て、青島に到着しその近くなる金嶺鎮に赴き有名な溜川炭礦並に博山炭礦を實視したが大體に於て鐵山も炭礦も採掘費が低廉である、即ち支那人の鑛夫は日給五十錢で以て可成懸命に働く夫れは我國の労働者と比較すれば能率の點に於て遙かに我労働者を凌いで居る。殊に博田炭礦の如きは日給三十五錢と云ふ我國としては豫想外の低率である、之は支那は生活の程度が我國よりも遙かに低い結果に因るのである。此金嶺鎮の炭礦では鑛夫が穴を掘つて夜はその穴の中に臥寝する、納屋などは十畳敷もあれば三十人位寝ると云ふ有様、實に此方面は経費がない状態で合同には最も適當な時期だから此際大合同を計畫實現して工場の改善、労働能力の増進、生産費の輕減を計る事が急務であると云ふにある、然し八幡製鐵所の拂下には尙相當有刀な反對論もあつて實現する迄には相當の曲折と時

日を要するだらうと云ふ。

●支那に於ける鐵及石炭

農商務省鑛山局長崎川才

四郎氏は昨秋十一月朝鮮、滿洲及び支那に渡航し各地に於ける鐵鑛業及び石炭鑛業の實況を視察し歸任せるが同局長に隨行せる農商務屬塚田俊郎氏は右に就て語る「最初朝鮮に渡航し次で本溪湖、奉天、鞍山站、大連、山海關、天津、北京、青島、金嶺鎮等の各地を巡視して來ましたが却却將來有望な國である。朝鮮から產出する石炭は大體に於て質粗惡である、本溪湖の鐵は既に喋々の辯を要する迄もない。

鑛量豊富、質良好なので有名な處である本溪湖を見て奉天に入り更に撫順炭礦を實視したのであるが是亦本溪湖の鐵と同様埋藏炭量に於ても作業其他の規模に於ても偉大なものである、撫順炭礦から鞍山站の製鐵狀態を實視して大連に入り奉天より山海關附近を探つて天津經由北京に出て、青島に到着しその近くなる金嶺鎮に赴き有名な溜川炭礦並に博山炭礦を實視したが大體に於て鐵山も炭礦も採掘費が低廉である、我國の労働者と比較すれば能率の點に於て遙かに我労働者を凌いで居る。殊に博田炭礦の如きは日給三十五錢と云ふ我國としては豫想外の低率である、之は支那は生活の程度が我國よりも遙かに低い結果に因るのである。此金嶺鎮の炭礦では鑛夫が穴を掘つて夜はその穴の中に臥寝する、納屋などは十畳敷もあれば三十人位寝ると云ふ有様、實に此方面は経費がかゝらぬのである。

北京から百哩にして張家口の手前なる宣華龍閑鑛山へも行つたが此鐵山の鑛量は三千萬噸と稱せられて居る、然も鐵鑛

の品質は到底我國に見られぬ程良好で恰も整然とした石炭層の如く鐵鑛が層をなしてゐる、故に此山では露天掘をやつてゐる、之は龍煙鑛公司即ち支那資本家の經營である、寺洞と云ふ炭礦では埋藏量も却々豊富で年十五萬噸を德山海軍燃料廠に納めて居る程だが、尤も之は該燃料廠に納入する爲に開發されたのだと云ふ。元來支那は鐵にしろ石炭にしろ南方の方が多い、北は渺いと云へば云へるが之は南方より北方が開發されて居る結果だと思ふ、山東省の如きは支那炭の輸入を獎勵して省内の鐵道の如きは輸出炭に限り特に運賃を半減してゐるやうな有様である、石炭山も撫順とか溜川炭礦とかになると規模も大きく凡て進歩した組織の下に採掘してゐるが、一般に採炭状況は舊式で所謂支那式採掘法である、採掘費其他の費用が低廉であると云ふ事は前述の如くである、例を博山炭礦に取つてみると此支那式採掘法で山元の採掘費が二圓、夫れから山元から青島まで出すとして二百哩の運賃が二圓である、更に青島から我國へ移入するとすれば其の間の運賃が二圓合計六圓となる、然も炭價が安いから我國に移入しても國內石炭より價格が低廉である、さて炭質だが支那炭は大體に於て良質であるが用途はコークス用、瓦斯發生用の二途に分たれる我々は北京より漢口へ出て漢陽製鐵所をも視察したが、該製鐵所は支那人の經營に係るものにして鐵鑛は大治鐵山のを用ひ年產十五萬噸と云ふ、蓋し支那人の經營としては大規模なものである、また楊子江を下つて大治に到つたが此大治鐵山は既に有名な處であるから呶々を要せぬが、四百噸の溶鑛爐二基は既に完成した、尤も製鍊は來春からであらうが蓋し斯の如きは東洋一大の大規模と云はねばならぬ、此

鐵山は漢治萍公司的經營に係るものであるが生産費は二十圓と云ふ、我國現在の鐵生產費は六十圓、如何に其間に大なる差遣があるか明瞭となると思ふ。

之を要するに鐵にしろ石炭にしろ支那は將に一大寶庫である、然も未だ開發の手が延びてはゐない故前途有望と云はねばならぬ、我資本家も此點に自覺し以て留意して未開の地域も廣大なる處より同國の資本家と相提携して即ち合辦の下に之が開發の事業に從ふ事が刻下の急務と云はねばならぬ支那の資本家は我々が抱いて居る所より廣い見界と度量を有してゐる故に相互に於て利益せんが爲に深き諒解を得て相提携の上合辦事業の下に此等豊富なる寶庫を開拓し以て我國に安價なる鐵や石炭を入れ、我產出のものと調和するやうにする事が最も肝要な事ではあるまいかと思ふ、支那人は產業と云ふ事に全力を傾倒してゐる今やマッチ、雨傘の如きものは盛んに我國に輸入されつゝあるやうな状態である、局長と私が乗つて歸つて来る時の船の中にも澤山な支那傘が積載してあつた、凡てが此やうな有様である故我が資本家も此點に留意して彼地に投資するやうにすべきであると思ふ、我が資本家も既に紡績業の如きは彼地に於て盛んに活躍してゐるが之は寔に喜ぶべき事であつて、支那資本家も我と提携する事は大いに歓迎する所と想察されるのである。」云々。

●昨年の鐵市場回顧 昨年度に於ける製鐵市場は概して不況不振の裡に極めて平凡に推移した、昨春に於て各製鐵業者は一昨年四月突發した財界恐慌の打撃に依り孰れも疲弊困憊し經營難に陥つた所から製鐵合同を畫策する者があつたけれども其趣旨や誠に結構であるが如何せん各製鐵業者夫れ

夫れ歴史と利害關係を異にし之を打つて一丸とするには種々困難の事情伏在するのみならず偶製鐵業者側と大阪鐵工俱樂部側と意見の扞格を來たした爲めに有耶無耶に畢つて了つた。

鋼鐵 是れより先好況時代に思惑的に盛に輸入せられたるのが財界恐慌に依り或は注文取消となり或は銀行處分物續出する等のため市場に巨大の荷物堆積せる所から一昨年四月以來殆ど海外よりの輸入を社絶して該在荷の消化に努めたけれども尙昨年に持越された在荷は三十萬噸の巨額に達した故に市況の萎靡不振夥しく一月末日に於て丸棒十貫目四圓五十錢に低落し一時の高値に比較する時は實に半額以上の大崩落である、爾來一高一低あつたが遂に五圓臺に昂騰し得ないで九月迄來た、一方輸入方面を顧るに三月三日倫敦會議で獨逸賠償各國品が漸次輸入し始めた、殊に獨逸品は價格の比較的低廉な所から他に比べて餘計に輸入せられた傾向あるけれども最近に至り賠償問題の行惱み獨逸政界並に經濟界の不安等のため假令註文しても到着確實でないことが往々あり爲めに獨逸よりの輸入は一時頓挫の状態である矢先米國のユー・エス製鋼會社は三月より八月まで四回連續的に値下を爲し更に十一月一部品の値下を發表した、斯くて漸次獨逸品價格に接近し來れる一方英國品も一時炭坑罷業の爲め製產能率を減ぜるもの罷業解決と共に其生産も漸次恢復し來り英米品は獨逸品に代りて輸入せられやうとする勢である、斯くて現在鋼鐵の輸入は英米獨三者競争の姿であるが向後は若し獨逸國內の諸問題が解決しない限り英米品に壓倒せらるゝこととなるであら

う、而して内地鋼鐵價格は九月にては在荷の著るしく減退したに擣て需要季節に入つた所から遽かに昂騰し市況恢復の曙光を呈せるやの觀があつたけれども十一月には需要季節の終了せる矢先軍備縮小の結果造艦制限の影響を受け忽ち反動安を演じ昨春の不況状態に返つた。

銑鐵 之も鋼鐵と粗同一運命であつて昨年に持越された在荷は約四十萬噸の多きに達せる一方に於て需要激減せる爲、相場は低落に次ぐに低落を以てし一月に於ては一噸九十圓見當を唱へ一時の高値に比して五十圓方の暴落であるが更に二月は七十圓に四月は六十圓に低落し爾後六十圓見當に保合ひて今日に至つたけれども該價格では遙かに生産費を破る程度であるから釜石の如きは六月限りで銑鐵の製造を休止した、斯くて製鐵業者が經營難に苦しみつゝある今尙斯の如くでなる所へ過般米國でユー・エス製鋼會社以外の獨立製鐵業者の合同が出來ると傳へられたことに刺戟せられたものか我製鐵業の合同問題が再燃せられたけれども主張者其人を得ぬためであらうか今回も亦矢張り畫餅歸して了つた。

● **軍縮と米國鐵界** 米國に於ける既往卅四年の製鐵產出高は五億五千五百十萬七千三百噸にしてその中製艦用及び海軍武器用として使用されしは二百一萬三千八百四十五噸にて全產額の僅に三厘六毛に止まり海軍制限の同國製鐵業界に及ぼす影響は輕微と見られてゐると。

● **米國鐵板値上** 最近入電によれば米國製鐵會社では薄鐵板の賣價を一噸に付四弗方引上げた、その結果同薄板三六物内地着一噸百九十七圓となり、年末の内地市場相場より十圓以上の高値となつたが目先本月より來月にかけて既約輸

入品が多いから市況に大した影響はあるまいと。

●歐洲鐵昂騰 歐洲大陸鋼鐵は契約高多かりし爲め製造繁忙を極め最近入電に依れば獨逸物バー二五時百十五圓と昨年末に比し五圓方昂騰したり、内地昨年末市況は輸入契約僅少にて二三月頃に至らば品不足を來すべし豫想にて一般に良経過を示したるが獨英米の強調は内地相場を浮動せしむべく豫想せらる。

●歐洲の鐵埋藏量と各國製鐵業の將來

(「アイアン、トレード、レヴ
ユー」八月二十五日所載)

世界の鐵鑛資源は未だ十分に探鑛せられず隨つて各國の埋藏量を精確に比較するを得ずと雖、概略の比較は敢へて不可能の事にあらず。北亞米利加の埋藏量は判然する所あるも歐洲に於ける如く精確に且低度鑛までの詳細なる調査は行はれ居らず。南亞米利加の資源は未知數に屬す、潛在せる廣大なる鑛床はアンデス山脈の西阪に沿うて存在し、無量の前寒武利亞鑛石は伯刺爾國ミイナスゼース及ウルキー州に埋没せり。鐵分四五%以上を含有するミイナスゼラース地方の鑛石は全歐洲に於けるよりも多量の鐵を包藏すべく又低度鑛を計算に入ることせば莫大なる量に達すべし、若し夫れ歐洲の資源調査の如く詳細に見積るとせば南アメリカの鐵は少くとも歐洲の倍額に達することを疑はず。

亞弗利加に關する報道は漠然として定まらず、佛蘭西及獨逸の二三記者が北亞弗利加の鐵鑛床に關して報道するものを除いては該大陸の鑛床を報ずる人々の意見は總べて單に理論的で地質學上の現象として之を見做し其の經濟的價値は取るに

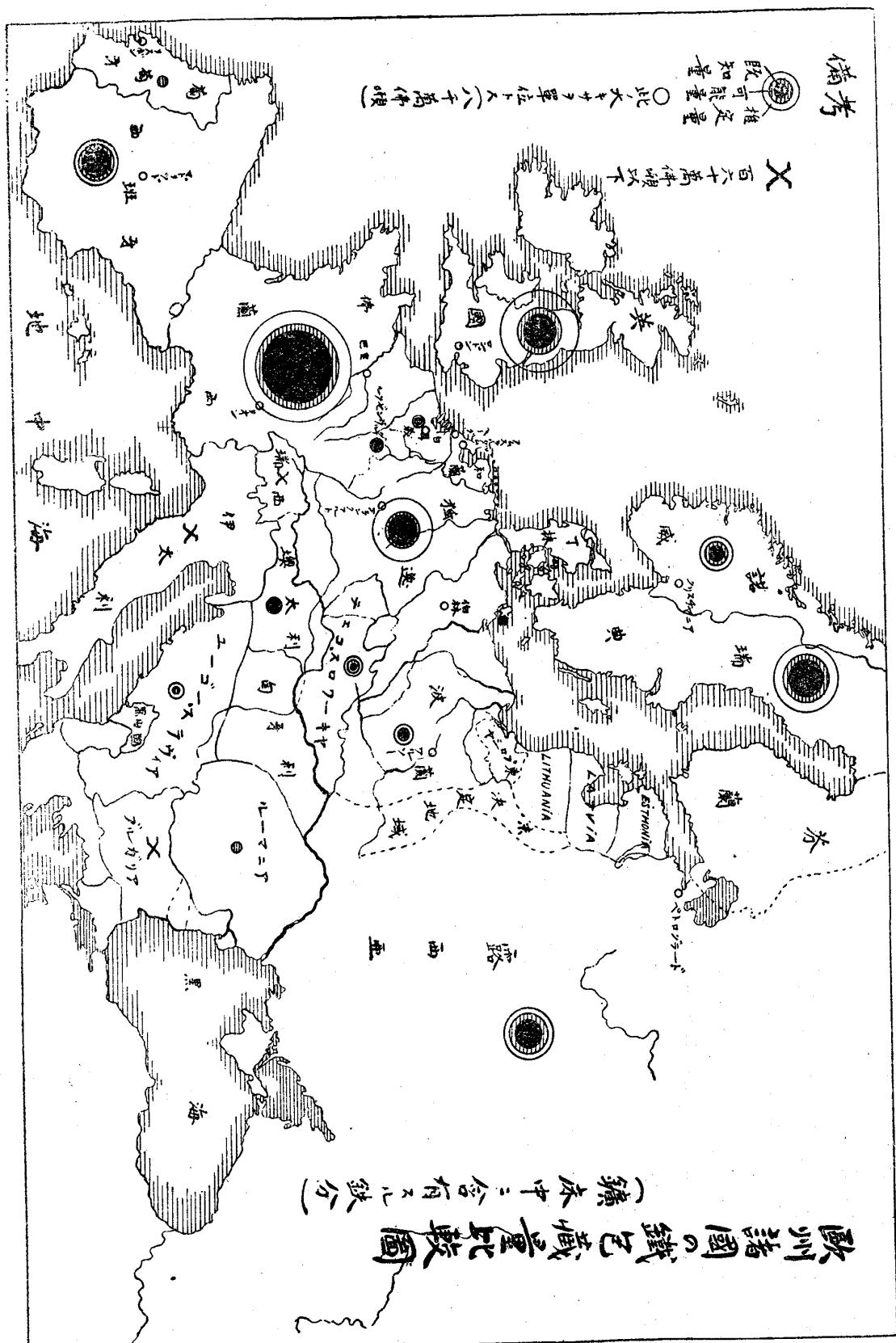
足らずとせり、斯く實際上の價値に關する記録無きを以て記者は已むを得ず亞弗利加の鐵鑛量を歐洲の約六分の一と概算し置く外なし。

全世界鐵鑛量概說

亞細亞の鐵鑛量は十分に判然せず、支那及朝鮮に於ては鑛山稼行せられつゝあり、印度は夥しき資源を有し小規模の製鐵業を營めり、西伯利亞には廣大なる資源あり、又比律賓には鐵礦士の大鑛床存在す恐らく亞細亞の鐵包藏量は少くも歐洲の四分の三に達すべしと信ず世界鐵鑛量の概數は歐洲の分を單位として次の如き比較數字を示せり然ども前述の如く曖昧なる點あるが爲め斷じて精確とは言ひ難し。

| 歐 | 洲 | 一 |
|-------|---|---|
| 北亞米利加 | | 三 |
| 南亞米利加 | | 二 |
| 亞弗利加 | | 一 |
| 亞細亞 | | 四 |

利用し得べき世界の鐵供給量は上記の數字を以てすれば一九一三年の產額率に於て一千年以上を持続すべし、これに反し若し產額にして五ヶ年間に於て毎年貳割五分の増進を示したる戰前の率を以て増進すとせば世界の鐵は約百三十年間に消費し盡すに至るべし。此の率を以て行くとせば紀元二〇四三年に於ける銑鐵の消費高は一九一三年の約八千萬噸に比し六十億萬噸に達すべし、然れども此の產額の表示するが如き偉大なる工業の發達はあり得べくも見えざるなり。蓋し採掘額の增加率は著しく減少すべく隨ひて世界鐵鑛供給量の生命は前述の計算より長かるべしと期待す。佛蘭西は歐洲に於て最も大なる資源を有し其の包藏量に於て顯然一頭地を抜け



英國の資源は瑞典に優る。英國は其の資源の鐵含有量に於ては瑞典に優れり、兩國に於ける鐵鑛床に關する調査報告は十分之を手にす、瑞典の資源は高度の磁鐵鑛にして英國の分は低度の炭酸鐵並に赤鐵鑛なり、兩國の既知及可能鑛の精確なる數量に就いては確信を以て見積ることを得、推定鑛量の見積は議論の餘地ある事項の決定を必要とするものにして見積人の態度に依頼せざるべからず。

英國の鑛量見積は頗る面倒なるものあり何となれば鑛石の大部は例令容易に之を探掘し得とするも外國物と競争し得る品位のものにあらざるが故なり、されば英國は莫大なる鑛量を有するに拘らず英國に於ては輸入鑛の使用日に増加し一方内國の鐵鑛生産額は月を追うて減少しつつある有様なり英國の地質學者が大布利顛の資源として見積りたる莫大なる鑛量の埋藏如何は之を疑はずと云へども使用せらるる鑛量として與へられたる數量以上には達せざるべし、獨逸は第四位に就いては疑ふべくものあらず比較附表に示せる推定鑛量九一、七〇〇、〇〇〇噸と云ふ大數字の精密如可はザルツギツテル、イゼルデー及ウルテンブルツグバワリアン地方鑛床の將來に賴る、一九一四年以前兩地方の生産高は着々増加を示し居たり、目下獨逸は鑛石の資源を一石残さず利用すべき能力を示し居れるが之れ次の結論を裏書するに足れり「獨逸には國の將來を單に農業國と見る一部悲觀論者ありとは雖、恐らく其の鑛床の開發を中止するが如きことなかるべし」

西班牙は第五位 西班牙は第五位在り其の利用し得べき鑛

り。英國の資源は瑞典に優る。英國は其の資源の鐵含有量に於ては瑞典に優れり、兩國に於ける鐵鑛床に關する調査報告は十分之を手にす、瑞典の資源は高度の磁鐵鑛にして英國の分は低度の炭酸鐵並に赤鐵鑛なり、兩國の既知及可能鑛の精確なる數量に就いては確信を以て見積ることを得、推定鑛量の見積は議論の餘地ある事項の決定を必要とするものにして見積人の態度に依頼せざるべからず。

英國の鑛量見積は頗る面倒なるものあり何となれば鑛石の大部は例令容易に之を探掘し得とするも外國物と競争し得る品位のものにあらざるが故なり、されば英國は莫大なる鑛量を有するに拘らず英國に於ては輸入鑛の使用日に増加し一方内國の鐵鑛生産額は月を追うて減少しつつある有様なり英國の地質學者が大布利顛の資源として見積りたる莫大なる鑛量の埋藏如何は之を疑はずと云へども使用せらるる鑛量として與へられたる數量以上には達せざるべし、獨逸は第四位に就いては疑ふべくものあらず比較附表に示せる推定鑛量九一、七〇〇、〇〇〇噸と云ふ大數字の精密如可はザルツギツテル、イゼルデー及ウルテンブルツグバワリアン地方鑛床の將來に賴る、一九一四年以前兩地方の生産高は着々増加を示し居たり、目下獨逸は鑛石の資源を一石残さず利用すべき能力を示し居れるが之れ次の結論を裏書するに足れり「獨逸には國の將來を單に農業國と見る一部悲觀論者ありとは雖、恐らく其の鑛床の開發を中止するが如きことなかるべし」

西班牙は第五位 西班牙は第五位在り其の利用し得べき鑛

量は瑞典の次に位すと雖、輸送上の困難と費用とは全鑛量が採掘し得らるるや否やを疑はしむ。

中央露西亞は第六位に座せり然れども現時の政治狀態は此の鑛床の開發を阻礙しつつあり。

諸威は多量の集積鑛を有す其の鑛石は從來有用視せられざりしが又將來も然るべきかと思惟す。南露西亞はクリヴォイロツク及ケルチ地方に貴重の鐵鑛資源を有せり且下第八位に座せりと雖、將來開發せらるるに至らば位置顛倒を見ることがあるべし。チエコ・スロワーキヤ、ウラル山脈地方、塊太利及ルクセンブルツクの有する既知鑛量は殆んど同様なるも波蘭の鑛量は未知數に屬す、右の諸國は總べて鐵鑛資源に關しては同一階級にありと見做すことを得。中央ボヘミアの鮎狀硅酸鑛及褐鐵鑛ゼブヌツ、ゴーモア地方の菱鐵鑛はチエコ・スローワーキアに於ける主要なる鐵鑛とす同國は此の外前のオーストリアンシレジアに横はるドンブロヴア石炭層地にも資源を有するを以て鐵工業を建設し之を維持する上に於ける立場は蓋し軟弱なりとは言ひ難し。

奧國はスチリア及カリンサ州に優秀なる菱鐵鑛の鑛床を有す然れども外國の石炭を使用せんば之を利用すること能はざるの觀あり。ルクセンブルツクに存在するミネット鑛床は貴重なる資源にして且十分に探鑛せられ居れりと雖、完全に掘り盡ざるやは問題に屬す。波蘭の資源は大部分褐鐵鑛にして其の價值は頗る疑しきものあり若し工藝學上に若干の變化を見るとせば其の價值を増進することあるべく又競爭鑛石の價格少しにても下落すとせば價值なきものとなるべし。希

量を加ふべし、白耳義、葡萄牙、ユーロースラブ、高加索、芬蘭、ルーマニア、伊太利、瑞典、ブルガリアは共に小量の資源を有するに過ぎず、又歐羅巴トルコには若干の鑛石あるも和蘭、丁抹及バルチック諸邦には殆んど包藏するものなし。
鑛量の分類 附表は次的一般分類法即ち既知鑛、可能鑛、推定鑛三項に分ち歐洲鐵鑛床中に含有する鐵量の分布を示すものなり。

一既知鑛とは目下有利に採掘せられつつある又は有利に採掘せられ得る鑛石を謂ふ。二可能鑛とは今後採掘せられ得る鑛石にして現時の採掘及冶金見地に基き及び鑛床の連續に關し地質學上の指示に基き採掘可能性を有するものを謂ふ。

三推定鑛とは(イ)現在に於ては利用し難き程深く潜在するも採掘方法の改善或は價格の騰貴に依り利用し得らるべき鑛石を謂ふ、(ロ)目下使用しつつあるものよりも低度鑛なりと雖、近き將來に於て恐らく使用せられ得べき程現在品に近き品質を有する鑛石を謂ふ、(ハ)主として媒鎔劑として使用せらるる鑛石及現在の冶金術に於ては化學上使用不適當なりとは雖、將來は使用せられ得るもの例へばチタン鐵鑛或は多量の硅酸を含有する鑛石を謂ふ。

推定鑛を示す數字を利用する際には注意を要す何となれば其の數字は深甚の考慮を費やして得たるものなりと雖、尙多少の假定を含み又判断に際して誤り無しとせざればなり。

佛蘭西及獨逸 以上枚舉したる總べての要素を考慮し且利用し得べき一切の報道を調査したる後ローレヌ地方の現在鐵資源を表示するものとして次の見積數字を掲ぐ。(佛頓)

佛蘭西(百萬噸單位)

| | 前獨領ローレヌ | 佛領ローレヌ | 合計 | 既知 | 可能 | 推定 |
|---------|---------|--------|----|-----|-----|-----|
| ルクセンブルグ | | | | 五五八 | 一五〇 | 一五〇 |
| | | | | 九九〇 | 二二五 | 三〇〇 |
| | | | | 六〇 | 三七五 | 四五〇 |
| | | | | 三九六 | 二一 | 四五〇 |

佛蘭西鐵量總計見積次の如し。

| | 既知 | 可能 | 推定 |
|-------------|---------|-------|-------|
| ローレヌ | 一、五四八、〇 | 三七五、〇 | 四五〇、〇 |
| ノルマンヂー | 一〇五、〇 | 四二五、〇 | 八二五、〇 |
| ブリタニイ及アンジュー | 一一五、〇 | 二三〇、〇 | 二三〇、〇 |
| ビレネ、オリアンタル | 一六、五 | 一六、五 | 一六、五 |
| オート、マルヌ | 五、五 | 一 | 四、五 |
| 其他鑛床 | 七、一 | | |

獨逸の鐵資源を地方別に概説すれば次の如し。

| | 百萬噸單位(佛頓) | 既知 | 可能 | 推定 |
|---------------|-----------|---------|---------|-------|
| 西ライン | 一、七九〇、〇 | 一、〇五三、六 | 一、五二六、〇 | |
| 東ライン | 一、三 | 二、〇 | 〇、二 | |
| ヴエーゼル | 一一八、九 | 九八、九 | 五八、〇 | 六五、一 |
| 沼鐵鑛(北部及中央獨逸) | 二、四 | 二、四 | 二、四 | 二、四 |
| チユリンドア | 一五、九 | 一三、五 | 三八、五 | 四三四、七 |
| ウルテンブルツク及バロリア | 一七、九 | 九二、〇 | 三八二、〇 | 二七、二 |
| シユミーデブルッグ | 三 | 一、〇 | | |
| 計 | 二五五、六 | 二〇七、四 | 九一、一 | |

歐洲の鐵資源分布(鐵鑛中に含む鐵分量)(佛頓)百萬噸單位

| | 既知 | 可能 | 推定 | 合計 | 百分比率 |
|--------|------|-------|-------|-------|------|
| 佛蘭西 | 二七〇〇 | 一〇五、六 | 一五六、〇 | 四、三九六 | 三三二 |
| 英國 | 三七五 | 四六三 | 一四七、三 | 三、三五二 | 一八三 |
| 佛蘭西及獨逸 | 二七〇〇 | 一〇五、六 | 一五六、〇 | 四、三九六 | 三三二 |

瑞獨西班露西亞小雲南

に至るべし、獨逸の鐵鑛資源は尙可なり擴張の餘地あるもの
の如しと雖、戰爭の結果喪失したる地方と比肩する鐵鑛生産
地を有せざるなり。

歐洲諸國の鐵包藏量割合 (鑛床中に含有する鐵分)

| | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 | 90 |
|----------|--|---|----------|----------|----------|-----------------|-----------|----------|----|
| 既知 | | | | | | | | | |
| 可能 | 佛蘭西 47.9% | 瑞典 118.8% | 西班牙 94% | 英國 85% | 獨乙 6.3% | 其他 15.6% | | | |
| 推定 | 佛蘭西 36.3% | 英國 16.1% | 瑞典 13% | 獨乙 7.2% | 露西亞 62% | 中央南露西班牙 其他 4.5% | 40% 12.7% | | |
| 合計 | 佛蘭西 35.2% | 英國 16.1% | 獨乙 14.8% | 瑞典 12.7% | 諸威 5.7% | 其他 13.9% | | | |
| 一人當り產額比較 | 歐洲の鐵鋼業は合衆國に比し多くない 利益あるが爲め困難の位置に座せり、採礦に從事する抗夫 人當り產額の低率は恐らく其の不利益の最大なるものなり、 次表は各國に於ける一人當り年產額の比較を示せら。 | 瑞 獨 西 中 央 南 露 西 班 其 他 | 瑞典 12.5% | 獨乙 11.1% | 西班牙 5.0% | 露西亞 4.2% | 中央 13.8% | 其他 13.8% | |

一人當り產額比較　歐洲の鐵鋼業は合衆國に比し多くの不利益あるが爲め困難の位置に座せり、採礦に從事する抗夫一人當り產額の低率は恐らく其の不利益の最大なるものなり、次表は各國に於ける一人當り年產額の比較を示せり。

次表は各國に於ける一人當り年產額の比較を示せり。

前獨領ローレヌ
佛領ローレヌ
三七八

ルクセシブルルツク

ローレヌ外の獨逸

英 西

合衆國

製鐵業に於

製鐵業に於ける鑛石以外の重要な生産品並炭業の一人當り年額數字に於ても歐洲と合衆國との差異は鑛石の場合と殆んど

現獨逸の鐵鑛^{キラ}出實能力は前の獨逸關稅聯邦能力の二〇・五%に過ぎざるが其の鐵鑛消費實能力は前獨逸關稅聯邦當時能力の五六・四バーセントなり、されば現獨逸の鐵鋼業を戰前と同一率に於て持續し行かんとせば獨逸は從來より多量の鐵鑛を輸入せざるべからず、若し夫れ此の鐵鑛の輸入に對し不自然の棚門立てられんか獨逸の鐵鑛業は衰退已むなきに至るべく而して諸外國の消費者は廉價なる鐵鋼の資源を喪失する

現獨逸の鐵鑛^{キラ}出實能力は前の獨逸關稅聯邦能力の二〇・五%に過ぎざるが其の鐵鑛消費實能力は前獨逸關稅聯邦當時能力の五六・四バーセントなり、されば現獨逸の鐵鋼業を戰前と同一率に於て持續し行かんとせば獨逸は從來より多量の鐵鑛を輸入せざるべからず、若し夫れ此の鐵鑛の輸入に對し不自然の棚門立てられんか獨逸の鐵鑛業は衰退已むなきに至るべく而して諸外國の消費者は廉價なる鐵鋼の資源を喪失する

同一率を示す歐洲製鐵業に於ける不利益の其の二は蓋し鎔鑄爐產額の比較的低率なるに在り、合衆國に於ては單位の擴張と改善並に傭役單位數減少の傾向により鎔鑄爐一基の年產額十二萬噸と云ふ結果を齎し居れり、歐洲に於ては舊設備維持の傾向ありて改善する所なき爲めに鎔鑄爐の產額は合衆國に比し頗る寡少にして獨逸は五萬五千五百噸英國は二萬八千噸に過ぎず。

一單位の大なる產額が能率の尺度とすれば歐洲は製鐵業に於ける產額の三要素即ち一人當り鐵鑄產額同石炭產額同銑鐵產額に於ては遙に合衆國に劣れり、然れども歐洲は從來生産費に於て合衆國と競争するとを得たるが故に、歐洲には生産上何等か合衆國と對抗する經濟的資源存在せざるべからず、輸送費の低廉は蓋し其の一なりとす、合衆國に於けるシューペリオル湖地方は鐵鑄の大生産中心地にして、石炭の生産中心地アツバレシアン山脈と相距ること平均七百二十五哩、其の石炭生産地は海岸と相距ること百二十五哩を算す、之れに反し英國に於ては鐵鑄と石炭と相接して存在し尙海岸近くに在る爲め輸出上船積費用低廉なり、又歐大陸に於てはローレヌ鑄床はウエストファリアンの炭田と相距ること僅に二百哩而して其の炭田の運河及河川に依りて海岸に通ず。

勞力の低廉 低廉なる労力の供給豊富なるは歐洲に於ける生産上經濟的資源の其の二なり、此であるが爲め歐洲の生産者は合衆國に於て使用せるが如き程度まで労力節減法を使用することなく比較的貧弱なる資源を以て低廉なる生産品を製出することを得たり。然ども此の利益は内國市場に對し成品の過剰を生ぜしむる惡結果を齎したり。

歐洲の労力供給は豊富なるに相違なしと雖、目下の状態にては労働者は低廉なる賃銀に甘んぜざるの傾向見ゆ、歐洲鐵業の將來を豫言することは困難なりと雖、改造の混亂期は避け難きが如し若し高賃を仕拂へば労働者は採鑄及鎔鑄業に於て一層能率を高め生産額を著大ならしむるに努むべく且労力節減法を更に多く採用するに至べし状態を更新するに不適當なる鎔床は之を棄て比較的低廉なる原料を供給する外國の鎔床を取るに至るべきが蓋し此の外國鎔床中には玖馬及伯刺西爾の鎔床を含むべし。

採掘鑄石の殆んど全部を輸出する諸國例へば瑞典、諾威及西班牙に於ける將來は單に微少の變化を示すに過ぎざるベシ。大規模の採鑄並に製鐵業を有する英國は痛切に新狀態を感じずるに至るべきが其の産業の將來如何は其の新狀態に已れを適應せしむる速度次第に在りと言ふを憚らず佛蘭西及獨逸の製鐵業の將來は彼等の協力次第に在り、ウエストファリアの石炭とローレンヌの鐵鑄と互に利用し合ふ程度は兩國の成功或は失敗の尺度たるべし。

ルクセンブルグも亦ウエストファリアの石炭に頼る所ありと雖同國は石炭と交換して獨逸に輸出する程十分の鐵鑄を有せず、白耳義は鎔鑄爐に供給すべき鐵鑄に關しては殆んど全く之を外國に仰がざるべからず、而して石炭に關しても從來國內の供給量不十分なりしが爲めウエストファリアの石炭を仰ぎ來れり、チエコスロワーキア及露西亞は原料に關しては殆んど外國に頼る必要なし。

伊太利は石炭を缺いて銑鐵の生産高多からずと雖、輸入原料に依つて製鋼業の發展を示し居れり、奧太利は外國より石

炭を仰がざるべからず若し昔日の如く英國炭を使用すとせば彼に敵対せる國を通じて之を輸入せざるべからず、波蘭は小規模の製鐵業を營む資源を有するに過ぎず、瑞西、和蘭、丁抹、新バルチック諸邦の資源は何れも大規模の製鐵業を築くに足らざるなり。(The Iron Trade Review August. 25, 1921.)

●歐米炭界並製鐵界便り

一、智利の炭業 八月初めに於ける智利の炭業は引續いて不安を示しローラ及コロネル炭田の坑夫はストライキ繼續中なり、小量の亞米利加炭輸入せられつゝあるが輸入業者は一旦斷絶したる英國の石炭輸出業者との取引を一層密接に挽回せんことを希望せり、因に智利にては英國炭の評判よし。

二、瑞典の製鐵業 本年最初七ヶ月間に於ける瑞典の鐵鑄輸出額は二百五十六萬噸に達し一九二〇年の同期間に於ける輸出額よりも六十六萬噸の増加を見たり、又本年の同期間に於ける各種鐵及鋼の輸出額は昨年同期間の十六萬二千噸に比し六萬八千噸に過ぎず、鎔鑄爐の操業状態は振はず總數百三十四基の内七月末現在操業爐數僅に二十基を數ふるのみ(昨年七月末現在操業爐數六十六基) 製鋼所は外國の競争に依り壓倒せられ間歇的に生産するに過ぎず。

三、ローレヌの鎔鑄爐 ローレヌに於ては鎔鑄爐の操業するもの目下(八月末現在)僅に十八基を數ふるに過ぎざれども休業中の高爐は近く操業するの運びに至るべし。

四、チエコ、スロ伐キアの炭業 本年最初三ヶ月間に於けるチエコ、スロ伐キアの炭業は著しき進歩を示せり、同期間の產炭合計三百六萬三千六百佛噸に達し、尙褐炭は合

計五百四十三萬四千八百噸に達したり、之れを昨年最後三ヶ月に於ける產額に比すれば前者は八%八九、後者は八%三八六の增加なり。骸炭の生産高は三九七、四三二噸にして五%八六の增加を示し。石炭より產したる煉炭の高は一九、二八六噸にして二一%四六の増進を示したり、褐炭より產したる骸炭及煉炭の高は前者は六一七噸後者は四四、二六三噸に達したり、採炭用並に労働者に分配せる石炭及褐炭の高は全額の一〇%九に達したるがこは昨年最後三ヶ月の分に比すれば二%六五の減少なり。(以下次號)

●俵博士より今泉理事宛來信

益々御清榮の御事と奉賀候小生爾來無恙旅行仕候間乍他事御休神被下度候扱而先日一寸申上候通り御紹介を頂き申候ストクホルム Mr. Wahberg に參申候に非常なる厚意を表せられ萬事好都合に瑞典國內の旅行を終へ申候段篤く御禮申上候茲に其様子一應御報知申上度候。

十月五日柏林を經てストックホルムに到着仕候同行は四人には有之候小生と熊本高工教授大森君と鐵道省の渡邊工學士と室蘭日本製鋼所の分析主任時田理學士に候。

同日早速ワールベルヒ氏を訪問仕り宜敷御願申上候旨申候仲々瑞典の工場は見學むづかしく殊に良品の工場は困難との事にて前途大に困り申候に如何なる風の吹き廻しにや其翌日御尋ね申候に頗る好都合にて諸工場には同氏より直接に其許可を得吳れ又同氏の助手なる若手の工學士を小生共の案内に附すべく一切萬事日程を定め吳れられ申候出立前には Jernkontoret の總裁 Kjellby 會長キラニイデル氏の催にて晝食の

應を受け申候其席に大學採礦冶金の教授連を招かれ一々紹介せられ申候其後二、三日は同市大學なり諸研究所の見物を案内せられ申候。

瑞典國は先づ Fagesta, Grangesberg, Hellefes, Hagfors Domariet, Sandrike, austa 等進んで又 Kiruna, malmablag 迄もチヤンと日程を造りて案内せられ候各工場にては必ず所長技師の出迎を受け常に宴會を催され仲には室内に日本の日章旗を飾れる工場もあり又記念の薄銅製の名刺を造り贈られたる所も有之候一同大喜にて旅行仕候丸で狐に騙された感も有之候十月二十四日ストックホルムに歸りては又々富豪 Johnson 氏に晩食に招かれ正服なくして大に閉口仕候位に有之候兎に角右の次第にて安樂に瑞典内を旅行して比較的に調査も出来しかと存候然し御承知の通り目下當國殊の外不景況にて百三十餘の高爐中僅に一割のみ稼業中、夫れも日々損失し居ると云ふ有様にて工場巡覽には都合悪しきものと存候斯くて十一月一日出發二、三の工場を見て一寸クリスチニヤを見物仕り候上トロルハブタを経て昨夜當地に着仕候此上御紹介有之候ラーメン氏を訪問し再び入獨の積に有之候。

ストックホルムを去るに際しワールベルヒ氏は貴下に宜敷傳言を依頼致さし候當國にては有力なる斯の Jernkontoret あり萬事協力活動せる様子は實に羨望の至りに不堪候小生は日本に於て之と同様の會の設立は目下の急務に非ずやと感じ申候大に貴下の御盡力に俟つ外無之かと存候同會の様子も少しは調べ申候之は貴下十分御存知と存候。

全國の製鐵に就て感ぜる概念は一ツ鐵鋼協會に報告仕度存候云々。(十一月六日 於瑞典)

●俵博士より香村會長宛來信

内地製鐵業は不振愈甚しく本溪湖も操業中止の由遺憾に御座候然しストックは段々少なく相成幾分景氣付き候趣先づく目出度存候夫れに致しても勞働問題は眞に困つたものに有之候團博士など殊に之等に御注意なれた候に付御歸朝の上は大に日本の爲めに相成る事可有之と存候米國に目下失業者は五百萬人、英國に三百萬人、瑞典にても之に準する有様に候之に就て人々の話を聞くに獨逸品が廉價にして世界を壓するにありと申事に御座候到底今日の爲替相場にては各國共獨逸品に及ばぬ有様に有之瑞典にても獨逸の倍は掛かると存候某氏の談に聯合國が獨逸を苦しめて又自ら苦しむ状態に候獨逸は目下勞働者一日六十馬克(邦貨にて約五十錢)に過ぎざるもの然かも物價は十倍十五倍の昇騰に付き勞働賃銀の八、九倍の食料品家屋は左程上げ居らず候目下獨逸にては失業者殆んど無之、働ける者は先づ一食へる状態にて此點は英米より寧ろ良しきものと存候然し中產階級、不具者は憐なる有様に候間一騒ぎなればよいがと申す事に御座候獨逸の製鐵業は石炭は尙所有すれども鐵鑛は不足しそれに世界市場の販賣機關を英人に崩され此の回復困難なる有様に御座候(中略)工業品規格統一調査會設立せられ既に第一回の會議も有之たる由は工業上最も大切な事に付何卒御盡力あらんことを切に祈り上候私も當地に於て出来る丈各種の事項を調べ歸りて御参考に供し度存候殊に軌條の規格などは鐵道省の方よりも話を聞き研究の歩を進め居り候。云々。(十一月二十六日於柏林)